

検察官からのメッセージ



I 副検事

ひとこと

困難にぶつかっても
ひたむきに頑張ります！



【副検事を目指したきっかけ】

元々、いわゆる推理モノといわれるマンガ、小説が好きで、ぼんやりと捜査や裁判というものに関わる仕事につきたいと思うようになり、そこから更に、捜査をした上で、どのような刑事処分をするべきか、処罰を求めていくべきか、裁判に実際自分でも携わって、最後まで見届けたいというような思いになり、検察官になりたいと思うようになりました。ところが、検事になるには、頭脳の問題が立ちはだかりました。それでも検察庁で働きたいと考えていたところ、検察事務官や副検事という仕事があるということを知りました。検察事務官として実務経験を積んだ上で副検事になれば、その経験をいかした仕事ができると思い、その頃から副検事を目指すようになりました。

【業務内容、仕事のやりがいなど】

私は、配点された事件の被疑者の取調べや被害者や参考人からの事情聴取等をしたり、裁判では裁判官に適切な判断をしてもらえるよう立証していくことなどの業務に当たっています。当然、1人でなしえることではないので、日々、多くの職員に支えられつつ仕事をしています。充実した日々を過ごしていますが、やはりストレスもあります。私は、そのストレスを馬たちに癒やしてもらっています。私は、子どもの頃から馬に乗りたいと思い、入庁してやっとその思いを叶えることができ、かれこれ10年以上乗馬を続けてきました。馬には学ぶこともたくさんあり、馬の忍耐強さ、おらかなさからは仕事をする上での立ち居振る舞いを学び、かわいさからは心の栄養をもらい、どちらも仕事の活力につながっています。

【メッセージ】

検察庁といえばあまり良い印象を抱かれない方もおられると思いますし、そのような印象に繋がるような出来事が少なからずあることも、日々、肌身に感じています。私たちの職務というのは、市民の皆様からの信頼によって支えられています。ですから、私たちの判断の1つ1つが、人の人生に大きく関わるのだということを意識し、事件の真相解明に努め、皆様の信頼を得られるよう、ひいては、社会正義が実現されるように、これからも誠実に職務を果たしてまいります。